

地域公共交通の課題と展望

～JR連合地方議員とともに考える地域交通のあり方～

VOL. 15 鳥取県（福間裕隆 県議会議員）

JR連合及びJR西労組（中央本部・米子地本）は、3月28日、鳥取県を訪問し、組織内議員であり、JR連合地方議員団連絡会で代表幹事を務める福間裕隆県議会議員とともに同県内の現状を視察した。その後、同県の平井知事及び交通政策担当者との意見交換を行った。JR連合から中山組織・政治部長、中村交通政策部長、JR西労組中央本部から荻山中央執行委員長、宮野政策・調査部長、同米子地本から廣澤執行委員長、大川書記長が参画した。



■鳥取県と、同県における公共交通の状況

鳥取県は、中国地方の日本海側、山陰地方に位置し、鳥取平野、倉吉平野、米子平野に存する中核都市の鳥取市、倉吉市、米子市を中心とした東部・中部・西部の地区で、行政や経済・文化圏を形成している。また、東西に交通軸を形成しており、西隣に位置する島根県とのつながりも強い。

人口は約56万人で、47都道府県のうち、最も少ない県であり、漸減傾向にある中、少子高齢化の進展に伴う自然減が大きく影響している。

経済面では、地域経済全体の低迷が課題となっている一方で、企業活動は持ち直しており、有効求人倍率が1.66倍と高水準に推移していることから、着実に改善しているという状況にある。

観光面では、鳥取砂丘は山陰海岸国立公園の特別保護区に指定され、中心部の約146haは海岸砂丘として国内で唯一天然記念物に指定されている。また、県内随一の観光地であり、観光可能な砂丘としては日本最大の面積を誇る。その他、JR西日本・境線の終着駅である境港駅を最寄りとする境港や水木しげるロードなども観光地として賑わいのあるエリアである。

交通状況は、「山陰自動車道」が東西に、「鳥取自動車道」、「米子自動車道」が南北に整備されているが、「山陰自動車道」はいまだに全線開通しておらず、整備済みの区間が無料区間として利用されている。一方、公共交通機関として、鉄道はJR西日本・山陰本線、伯備線、因美線、境線だけでなく、第三セクター鉄道である「若桜鉄道」、「智頭急行」がある。バスは日ノ丸自動車、日本交通の2社が県内の路線バスや県外への都市間的高速バスを運行している。また、空港は地方都市では非常に珍しく、「鳥取砂丘コナン空港」、「米子鬼太郎空港」の2ヶ所ある。とりわけ、JR西日本・山陰本線においては、2001年に米子～益田間、2003年に鳥取～米子間が竣工した高速化事業を実施しており、鳥取県・島根県がそれぞれ負担の上、完成に至ったものである。なお、鳥取～米子間（92.7km）は13分短縮し、開業後1ヶ月の特急利用は、増発効果もあり、2倍以上に増えた。



▲ 出典：鳥取県HP

■鳥取県の現地踏査等

3月28日、JR連合及びJR西労組（中央本部・米子地本）は、鳥取県へと赴き、JR連合地方議員団連絡会の代表幹事である福間裕隆・鳥取県議会議員とともに、同県における取り巻く環境等を把握するべく現地踏査を行った。

まず、同県の東部に位置する岩美町でJR西日本が運営する鯖（お嬢サバ）の陸上養殖センターに向かった。こちらでは、JR西日本の社員を含め、3名態勢で運営しており、訪問当日はまさに出荷時期という様子で、出荷に向けた準備を行われていた。陸上養殖は、海中の生け簀で養殖する一般的な養殖と違い、地下海水をろ過してくみ上げ、陸上の水槽で育てる手法である。さらに、親魚も養殖されたものを使用し、特殊な餌を用いることで、寄生虫などが付きにくく、より安全なものとしている。同施設においては、6万匹の稚魚を4・5月の出荷に向けて1年かけて育てている。そういった育て方から『お嬢サバ』と命名されたとのことである。なお、鳥取県・岩美町からも支援を受けており、地域活性化にむけた一助になるとともに、そこで働く3名のうち、2名が地元採用ということであり、雇用拡大にも繋がっている。今後、さらに拡大することを目指して取り組みたいということであった。

続いて、同町内にある山陰本線の東浜駅に向かった。東浜駅は「トワイライトエクスプレス瑞風」の停車駅でもある。外観は、トワイライトエクスプレス瑞風のデザインを担当した建築家・浦一也氏による設計であり、非常にスタイリッシュな出で立ちである。特に、ステンレス鏡面仕上げの駅舎天井は圧倒的な存在感を醸し出しており、周りの風景と調和しつつも、強い印象を放っていた。さらに、同駅に停車した際に乗客が利用するレストラン「アル・マーレ」にも訪問した。「アル・マーレ」とはイタリア語で海辺の意味であり、海岸沿いの砂浜に面した場所にある。当日は地元の方達とのイベントが行われており、地域の賑わいにも繋がっているという効果も確認できた。なお、トワイライトエクスプレス瑞風が停車した際には、こちらのレストランに面した浜辺で「地引き網」が行われているとのことであった。



▲ センター長を務める吉村さんは、前職が駅長という経歴であるものの、地元鳥取県を盛り上げるべく、「お嬢サバ」に愛情を注いで育てている。



▲ 建築家・浦一也氏の設計による、「東浜駅」は天井が鏡面仕上げという圧倒的な存在感で、トワイライトエクスプレス瑞風のお客様をお迎えする。



▲ 石窯焼のピザなど、イタリア料理でもてなすレストラン。浜辺に面しており、ここでは「地引き網」体験が味わえる。

■鳥取県知事・同県の交通政策担当者との意見交換

現地視察後、鳥取県庁舎を訪問し、平井鳥取県知事と面会の上、交通政策担当者との意見交換を実施した。平井知事との面会では、冒頭、知事から交通政策への考えを示され、J R西日本との連携の重要性などが述べられた。続いて、J R連合を代表して、荻山中央執行委員長からお礼とともに、J R連合・J R西労組の政策活動について紹介した。

その後、交通政策担当者との意見交換に場を移し、中村交通政策部長から「『チーム地域共創』をつくる9提言」（鉄道特性活性化P T最終答申・簡略版）について説明を行った後、鳥取県から同県の交通政策に関して、同県を取り巻く情勢や鉄道・バスなどをはじめとする公共交通の利用促進とともに生活交通の確保の取り組み概要、課題認識などについて説明を受けた。

鳥取県においては、冒頭に触れたように東部・中部・西部地区に区分され、これらの地域ごとに、市町村をまたがる形での地域公共交通網形成計画が策定されているとのことであった。また、第三セクター鉄道の運営にも関わっており、地方路線の課題とともに、上下分離方式等の財政負担についても詳細な解説があった。また、J R西日本・伯備線については、線形改良・新車導入などによる速度向上が課題と考えており、J R西日本会社・国にも要望しているとのことであった。

説明後、意見交換を行い、地域公共交通網形成計画や伯備線への要望などについて、出席者から質問が出た。伯備線については、県としてのJ R西日本会社への強い要望でもある老朽化する特急車両の更新について、認識を共有した。また、地域公共交通網形成計画が広域かつ全域で策定されていることについては、県議会での質疑をきっかけとして取り組んだこと、米子市における交通政策のマスタープランがなかったため、西部地区から法改正直後に策定にとりかかったことなどが答えられた。一方で、再編実施計画を進めるには利害調整などが困難となり、時間を要することなど、実態が明らかにされた。その他、J R関係の予算措置や「とり鉄」キャンペーンなど、地域公共交通、とりわけJ Rに対する積極的な姿勢が確認できた。最後に、福間県議からは、鳥取県のように交通政策の先駆者として取り組みを進めている自治体を後押しするような国の支援の必要性（モデル地区に指定して、取り組みを推進するなど）についても意見が出された。

鳥取県の取り組む、広域での地域公共交通の交通政策は非常に先進的であるものとして、今度のJ R連合の政策活動においても参考にすべき内容と捉えられる。引き続き、鳥取県の政策展開を注視していくべきと考え、今回、お世話になった福間県議と連携し、J R西労組とともに今後も継続的に情報収集を行っていく。さらに「チーム公共交通」形成と「チーム地域共創」の体現にむけた取り組みが進められるよう、引き続き地域の実情をしっかりとくみ取り、J R連合としての政策立案と各方面への提言活動に活かしていく。



▲ 福間県議は県議会の副議長も務める。(写真は副議長室)



▲ 平井知事はTV出演などで知名度も非常に高い。